

千代小学校・千代中学校改築工事設計者基本設計プロポーザルの審査結果について

1. 審査結果

・最も適した設計者:Jグループ

(建築設計者)

久米・大設計共同企業体

代表構成員:株式会社 久米設計 九州支社 支社長 永野 孝之

構 成 員:株式会社 大設計 代表取締役 和田 義一

(設備設計者)

株式会社 エスティ設計 代表取締役社長 庄司 雅之

・次点者:Iグループ

(建築設計者)

内藤・雅禧設計共同企業体

代表構成員:株式会社 内藤建築事務所 九州事務所 所長 神田 宏二

構 成 員:株式会社 雅禧建築設計事務所 代表取締役 早田 倫明

(設備設計者)

株式会社 トーホー設備設計 代表取締役 鶴田 明

2. 選定委員会開催日程

・第1回選定委員会

令和7年6月27日(金)

設計プロポーザルにおける審査、技術提案書評価及び求める提案課題並びに参加資格について審議を行い、審査方法など基本的な事項について決定。

・第2回選定委員会

令和7年7月31日(木)

配置する主任担当技術者の資格並びに管理技術者及び主任担当技術者の実績について、書類審査による一次審査を行い、二次審査対象者3者を選定。

・第3回選定委員会

令和7年10月7日(火)

二次審査に向け、ヒアリング項目について意見交換。

・第4回選定委員会

令和7年10月15日(水)

技術提案書に記載の業務実施方針及び評価テーマについてのヒアリング並びに業務価格による二次審査を行い、最も適した設計者を選定。

3. 一次審査(100点満点)

参加表明書を提出した3者をH～Jグループとして、各グループの参加資格及び「資格(主任担当技術者の専門分野の技術者資格)」「技術力(各技術者の業務実績)」の評価点の算定結果について、事務局が選定委員会へ説明を行った。

選定委員会は事務局の説明内容を確認のうえ、上位3者を二次審査参加者として選出することを決定した。

【一次審査の評価点】

順位	1位(Jグループ)	2位(Hグループ)	3位(Iグループ)
評価点	92.5点	80点	56.25点

4. 二次審査(120点満点)

二次審査参加者が提出した技術提案書に基づいてヒアリング(プレゼンテーション15分以内、質疑応答15分以内)を実施した。

各選定委員は、「業務の実施方針」「業務の実施体制」「業務の実施工程」「各評価テーマ」について採点した。事務局にて各選定委員の評価点の集計を行い、「資格・技術力(一次審査評価点の15%)」と「業務価格」の点数を加えたものを、各グループの評価点の合計とした。

選定委員会は、評価点合計の最も高いJグループを最も適した設計者、次に点数の高かったIグループを次点者として選定することを決定した。

【各グループの評価点】

評価項目		配点	評価点					
			Hグループ		Iグループ		Jグループ	
資格・技術力 (一次審査の15%： 小数点第三位以下切捨て)		15	12.00		8.43		13.87	
			平均	合計	平均	合計	平均	合計
技術提案	業務の実施方針	20	12.14	85	12.85	90	14.28	100
	業務の実施体制	20	9.28	65	12.85	90	12.14	85
	業務の実施工程	20	11.42	80	12.14	85	10.71	75
	テーマ1	20	12.85	90	14.28	100	12.14	85
	テーマ2	20	9.28	65	9.28	65	12.14	85
技術提案小計		100	54.97	385	61.40	430	61.41	430
業務価格		5	4		5		2	
評価点合計 (技術提案は平均点)		120	70.97		74.83		77.28	
順位			3位		2位		1位	

※技術提案の平均点は、小数点第三位以下切捨て。

5.審査講評

Jグループ(選定者)

【業務の実施方針】

- ・山笠を中心に校区の特性を踏まえた方針となっている点が評価された。
- ・地域活動がしやすい空間構成となっている点が評価された。
- ・延床面積を削減できる提案が評価された。

【業務の実施体制】

- ・円滑な業務遂行のための具体的な実施体制が評価された。
- ・地域の伝統、文化の継承に資する提案が評価された。
- ・ZEBプランナー認定設計事務所としての知見を活かし、コストを踏まえた効果的な手法の検討を行う点が評価された。

【業務の実施工程】

- ・ワークショップについて具体的で効果的な提案をしている点が評価された。
- ・初期に重要事項に取り組み、調整期間を確保する提案が効果的であると評価された。
- ・視覚的にわかりやすい資料で確実な合意形成を実行する点が効果的であると評価された。

【テーマ1】

「児童・生徒の交流や地域とのかかわりが生まれる施設計画

- ・自分好みの居場所が見つけれられる多様な場を用意し、異学年交流を促す計画が評価された。
- ・山笠を中心とし、地域との交流に配慮した計画が評価された。
- ・地域開放について、セキュリティと利便性を両立した提案が評価された。

【テーマ2】

「ライフサイクルコストの低減及び省エネ性能の向上の両立に配慮した施設計画」

- ・ライフサイクルコストの低減について、実現性が高く具体的な提案と評価された。
- ・学校運営をしながら避難所を独立運用する提案が評価された。
- ・ZEB Ready達成のための具体的で実効性のある提案が評価された。

Iグループ(次点者)

【業務の実施方針】

- ・各学年との交流の場づくりとして具体的で独創的な提案が評価された。
- ・コストへの影響が大きい項目を重点的に検討する提案が効果的であると評価された。
- ・将来の教育内容やクラス数の変動に柔軟に対応できる考え方が評価された。

【業務の実施体制】

- ・円滑な業務遂行のための具体的な実施体制が評価された。
- ・豊富な小中一貫校の実績を活かした効果的な実施体制が評価された。
- ・学校生活への影響を考慮した騒音・振動の少ない仮設校舎建設、改修工法を提案をしている点が評価された。

【業務の実施工程】

- ・ワークショップの事例について具体的に検討を行っている点が評価された。
- ・行程を厳守するため、早期に条件整理及び課題の抽出を行う具体的な取り組みについて提案している点が評価された。
- ・小学校や中学校の歴史・思い出を新学校へ継承するための具体的な提案が評価された。

【テーマ1】

「児童・生徒の交流や地域とのかかわりが生まれる施設計画」

- ・千代小学校の取り組みを踏まえた、児童・生徒同士の交流を促す計画が評価された。
- ・木質化を効果的に取り込み、心地よい空間構成を提案している点が評価された。
- ・児童・生徒の安全性に配慮した施設計画が評価された。

【テーマ2】

「ライフサイクルコストの低減及び省エネ性能の向上の両立に配慮した施設計画」

- ・経済性に配慮した形状やスパンによる構造計画とする点が評価された。
- ・高潮時など災害時を考慮した設備の配置計画が評価された。
- ・ZEB Ready達成のための具体的で効果的な提案が評価された。

Hグループ(非選定者)

【業務の実施方針】

- ・小規模校という特徴に着目した効果的で具体的な計画が評価された。
- ・基本設計の段階から専門家が参画し、きめ細かい概算金額の算出、コスト検証を行う計画が評価された。
- ・基本仕様と付加仕様を区分し、コストと品質のバランスをとった効果のある提案が評価された。

【業務の実施体制】

- ・新しい時代の学びに関する最新動向や事例を熟知した専門チームによるバックアップ体制が評価された。
- ・ZEB実績について不明瞭であったとの意見があった。

【業務の実施工程】

- ・早期に児童、生徒、保護者の意見を聞いて検討することは、地域の満足感を得やすいと評価された。
- ・合意形成を迅速化する具体的な提案が評価された。
- ・複数の配置案を提案している点が評価された。

【テーマ1】

「児童・生徒の交流や地域とのかかわりが生まれる施設計画」

- ・共創空間を生み出し、小規模校の特色を生かす点が評価された。
- ・地域とつながる独創的で付加価値がある提案が評価された。
- ・児童生徒の交流に加え教職員間の小中連携や働きやすさにも着目している点が評価された。

【テーマ2】

「ライフサイクルコストの低減及び省エネ性能の向上の両立に配慮した施設計画」

- ・無駄をそぎ落とし、機能を凝縮した施設計画は有効で実現性のある提案として評価された。
- ・既存施設を活用し、仮設校舎を最小限化する考え方が評価された。
- ・自然の風や光を活用した快適性の確保とZEB Ready水準の省エネの提案が効果的であると評価された。